

1 ○ ポリオワクチンについて（案）

2

3 （１）疾病の影響等について

4 急性灰白髄炎（ポリオ）は、ポリオウイルスの中樞神経への感染により引き起
5 こされる急性ウイルス感染症で、典型的な麻痺型ポリオ症例では、運動神経細胞
6 の不可逆的障害により弛緩性麻痺を呈する。現在、わが国では 30 年近くにわた
7 り野生株ポリオウイルスによるポリオ症例は発生していない。しかし、依然とし
8 て海外では野生株ポリオウイルス及びワクチン由来ポリオウイルスによるポリ
9 オの発生が継続し、またポリオワクチン接種率が低下した国における野生ポリオ
10 の集団発生がみられることなどから、ポリオワクチンについては今後も高い接種
11 率を維持していく必要がある。一方、我が国では、近年確認されている国内のポ
12 リオ患者は、すべて現行の経口生ワクチン（OPV）の副反応によるワクチン関連
13 麻痺症例（VAPP）である。

14

15 （２）ワクチンの効果等について

16 3 種類の血清型の弱毒化ポリオワクチン株を含む OPV は、安全性、有効性、利
17 便性に優れたワクチンであるものの、稀ではあるが VAPP 発生のリスクは不可避
18 である。高い抗体保有率を維持しつつ VAPP 発生のリスクを低減させるためには
19 不活化ポリオワクチン（IPV）の導入が必要である。現在、国内で開発中の百日せ
20 きジフテリア破傷風（DPT）と不活化ポリオワクチン（IPV）の混合ワクチンであ
21 る DPT-IPV 4 種混合ワクチンの有効性と安全性について、現時点での評価は出来
22 ないが、現在治験が進行中であり、その評価を踏まえ、速やかに適切に対応す
23 ることが必要である。